

Minimally Invasive Surgery -インプラント周囲の軟組織移植術， 骨造成術への応用

佐藤 琢也

MI (Minimal Intervention) の概念が齶蝕治療に取り上げられて久しい昨今では、歯周形成外科、あるいはインプラント治療においても、MI コンセプトが浸透しつつある。しかし、同じ“MI”でも侵襲のないアプローチを持つ齶蝕治療とは異なり、歯周-インプラント形成外科手術には必ず侵襲を伴うために、この領域では MIS=Minimally Invasive Surgery :「最小限の手術侵襲」と称するが適切であろう。具体的には、歯周・インプラント周囲の Soft Tissue Management において、歯科用マイクロスコープや強拡大ルーペを用いながら、できる限り最小の外科的侵襲の範囲で、生物学的、審美的にも満足しうる治療結果を達成しようとする試みの総称である。

ところで、この MIS によって、従来では手術侵襲の大きいとされる Bone Grafting や、さらには瘢痕や骨欠損が顕著な前歯部再建症例についても、患者の負担を軽減し、さらには審美的な治療結果を提供することが可能となった。すなわち、インプラント治療が困難とされた症例への適応拡大を実現し、さらに後の補綴のフェーズにて、拡大視野下の精密診療とリンクする高次元の学際治療を成就させることを、MIS の治療成果として患者・術者の双方から評価されつつある。

したがって、本講演においても、マイクロスコープ視野下によって行った MIS の実際を供覧し、軟組織移植術のみならず、骨の開削の少ない上顎洞挙上術のテクニック (Horizontal Mailbox design)、上顎前歯部再建症例、さらには、インプラント治療の経過が思わしくない上顎前歯部症例における新しいアプローチを紹介したい考えである。

本講演ではとくに自身の臨床例を用いて MIS の詳述をできる限り図説し、会場の諸兄先生方と共に「患者目線」の歯周-インプラント形成外科の理解を深めながら、より活発なディスカッションとアイデアの共有を計ることができればと考える。

1998年	大阪歯科大学 卒業，大阪大学歯学部附属病院口腔総合診療部 入局
2003年	大阪大学大学院 歯学研究科 博士課程修了（歯学博士）
2005年	UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）プリセプター コース履修
2006年	サトウ歯科・デンタルインプラントセンター大阪 開業
2007年	大阪歯科大学歯科技工士学校非常勤講師

2009年

医療法人俊慈会 サトウ歯科 理事長

Club GP 代表

日本口腔インプラント学会 会員，専門医

日本補綴歯科学会 会員，専門医

日本審美歯科学会 会員，評議員，認定医

日本デジタル歯科学会 会員，評議員

日本歯科審美学会 会員

European Association for Osseointegration 会員